

# トラフグ資源増大技術開発事業

中島博司

## 目 的

伊勢湾放流群の放流サイズの小型化および熊野灘放流群の適地放流による添加効率向上によりトラフグ放流事業の効果的な推進を図る。

なお、結果の詳細は関連報文に報告したので、ここではその概略を記載する。

## 方法および結果

### 1. 放流試験

- ・供試魚 30,000 尾（平均全長 37mm）を、6 月 7 日に（独）水産総合研究センター南伊豆栽培漁業センターからトラック輸送で尾鷲栽培漁業センターに受け入れ、中間育成を開始した。収容時のへい死尾数は約 30 尾と僅かであった。
- ・標識装着作業は 7 月 11 日から 13 日にかけて、尾鷲栽培漁業センター海面中間育成施設で行った。標識装着尾数は 28,964 尾で中間育成歩留まりは 96.5%と高率であったが、尾鰭欠損度が高く、平均体長は 61mm であった。
- ・標識作業は、昨年同様エアインジェクターと手打ちで行った。視認性は A：54%、B：38%で前年より A の割合が低かった。
- ・標識放流魚は、トラック輸送で、7 月 13 日午後に海山町引本湾の湾奥部に放流された。
- ・放流時のへい死個体や衰弱個体などを除き、有効放流尾数は 28,000 尾とみなした。

### 2. 資源利用実態調査

- ・0 歳魚を対象とする小型底曳網、1 歳魚以上を対象にする延縄について昨年通り漁獲統計調査を実施した。さらに、和歌山県三輪崎漁協および串本漁協の延縄漁獲実態についても調べた。
- ・漁獲物調査とイラストマー標識魚の発見は、有滝・安乗・甲賀・波切・二木島市場を中心に実施した。この他、和歌山県三輪崎市場・串本市場でも調査を行った。
- ・小型底曳網の 11 月から 3 月までの推定漁獲量は 1.6 トンで、前年比約 3 倍であった。
- ・延縄漁獲量は 39.5 トン、漁獲金額は 1 億 9939 万

円で、漁獲量は前年比約 2 倍であったが、漁獲金額は前年をやや上回る程度であった。

### 3. 放流効果調査

#### 小型底曳網

- ・イラストマー標識 H18 伊勢市放流群が 0.94%、二見沖放流群が 0.59%で、静岡県地先放流 2 群は発見されなかった。一方、ALC 標識 H18 伊勢市 36 放流群は 0.29%、伊勢市 58 放流群は 0.38%、浜名港 55 放流群は 0.09%、太田川河口 51 放流群は 0.02%と推定された。

#### 延縄

イラストマー標識（調査尾数 3,343 尾、調査率 9.1%）

- ・H17 野間放流群の回収率が 3.11%と最も高く、次いで H17 太田川河口放流群が 2.60%、H17 木曾三川河口沖放流群が 1.56%、浜名港放流群が 1.33%であった。H17 賀田湾放流群は全く発見されなかった。さらに、2 歳魚である H16 木曾三川河口沖放流群 0.09%、浜名港放流群 0.16%、矢作川河口放流群 0.06%と推定された。H16 熊野市放流群は熊野灘南部海域でのみ発見され、その推定回収率は 0.05%であった。
- ・和歌山県三輪崎および串本では、H17 太田川河口放流群が 0.05%と推定された。また、H16 熊野市放流群の回収率は 0.02%と推定された。
- ・H16 熊野市放流群の熊野灘南部海域および和歌山海域の回収率はそれぞれ 0.05%、0.02%合計 0.07%と推定された。

ALC 標識（調査尾数 815 尾、調査率 2.4%）

- ・H17 野間 44 放流群の回収率は 2.39%、野間 33 放流群は 2.33%、野間 25 放流群は 0.17%、浜名港 33 放流群は 1.81%と推定され、さらに、H16 常滑 26 放流群が 0.04%と推定された。

#### 関連報文

H18 年度資源増大技術開発事業報告書 回帰性回遊性種（トラフグ） 佐賀県・山口県・大分県・愛媛県・三重県・愛知県・静岡県・秋田県